

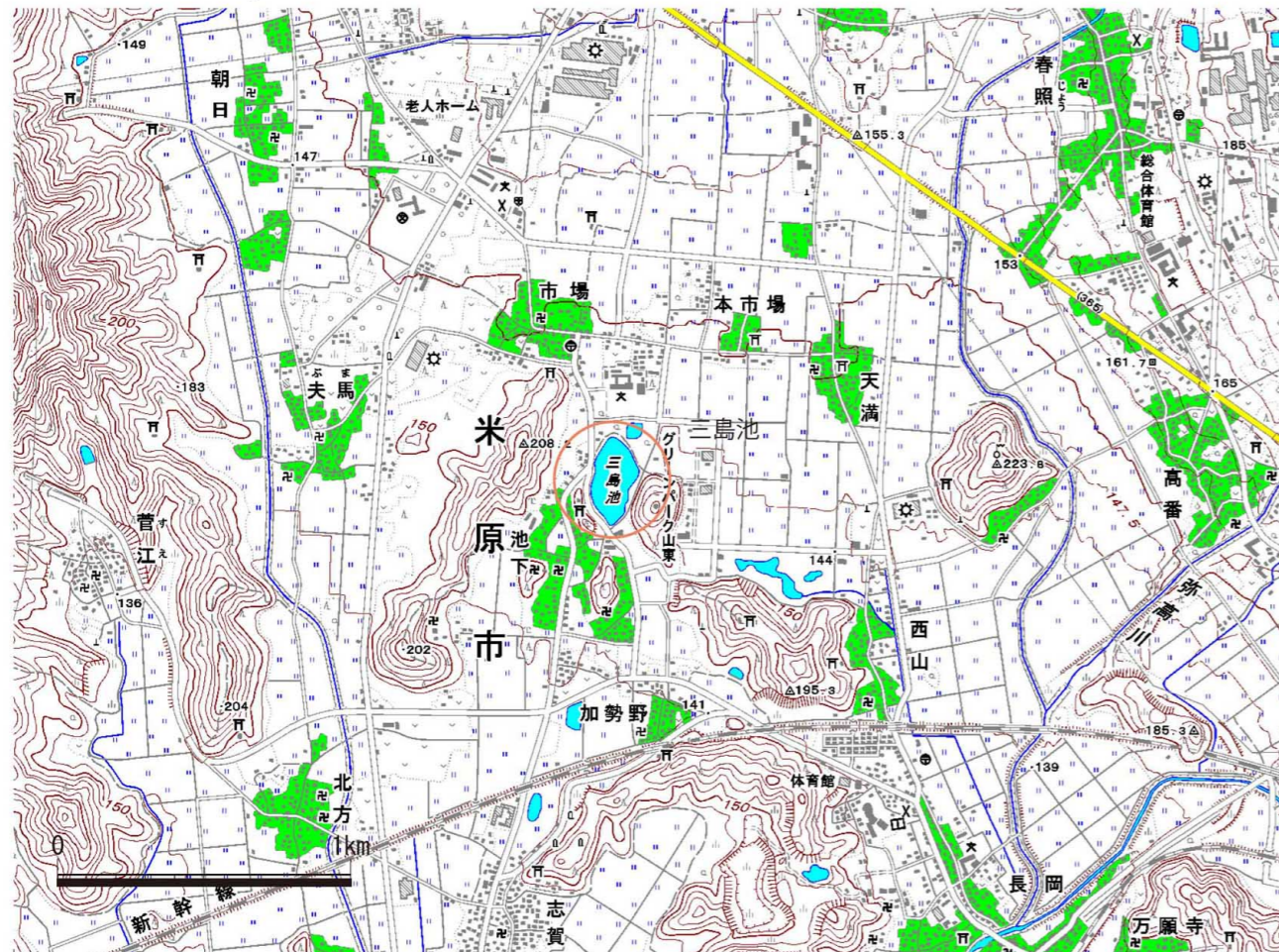
周辺の
みどころ

三島池のある米原市は、伊吹山や^{りょうぜんさん}霊仙山といった石灰岩質の山々から湧き出す豊かな湧水の里として名高い。三島池周辺にも、伊吹山裾から湧き出す湧水が点在している。

泉神社湧水は、水温約11度の冷水が1日4,500 tも湧き出す湧水であり、環境省の名水百選にも選ばれている。伊吹山登山口にあるケカチ湧水は、修験者たちが身を清めた清水と伝えられる。また、米原市伊吹支所にはほど近い、^{はさまだ}間田湧水群では日本武尊の伝承をもつ小碓の清水や臼谷の湧水を見ることができる。また、少し足を伸ばすと、JR醒ヶ井駅近くにある中山道醒井宿では、8月～9月頃、^{いさめのしみず}居醒清水や^{じゅうおうすい}十王水、^{さいぎょうすい}西行水などの湧水に咲くバイカモの可憐な花を見ることができる。



居醒の清水



[アクセス]

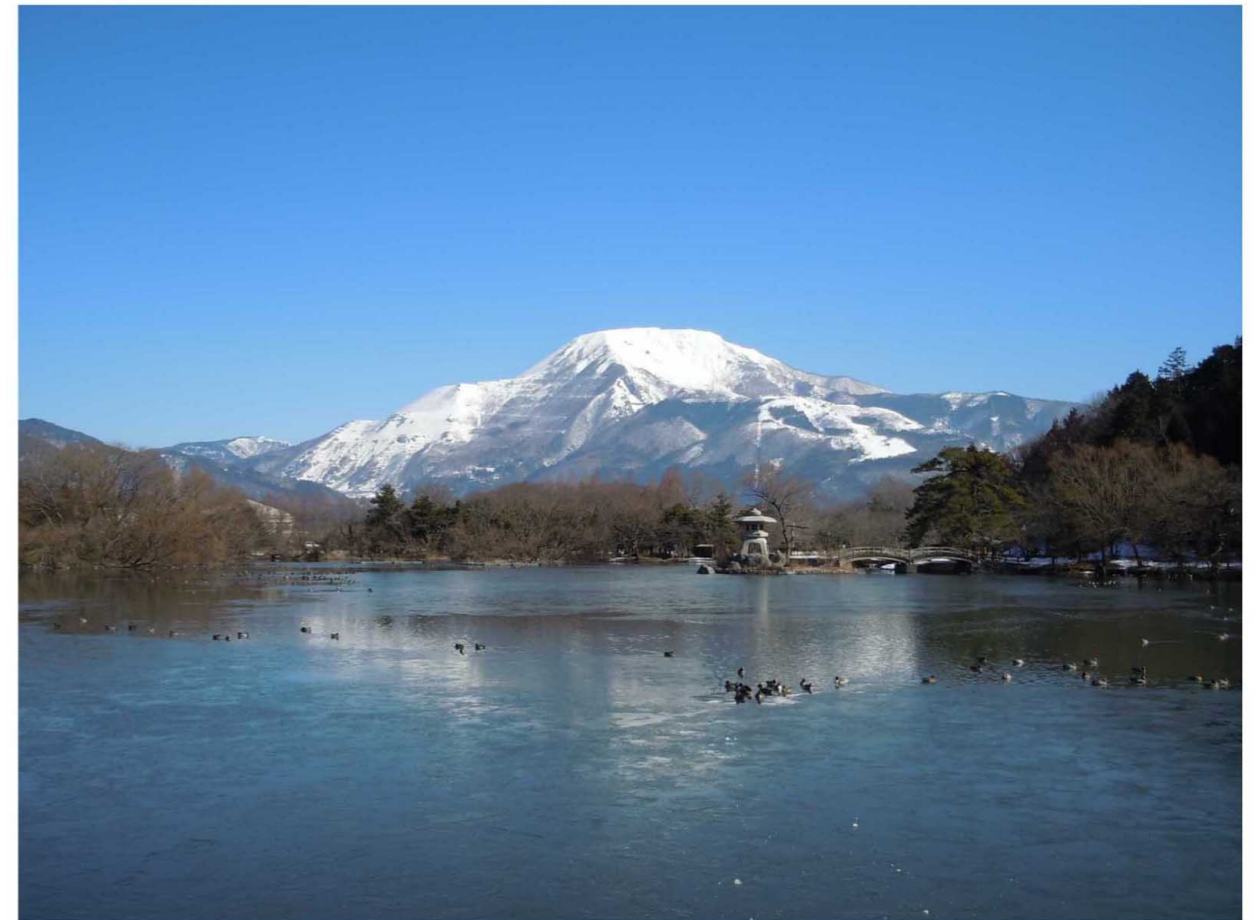
- 三島池にはJR東海道本線「近江長岡駅」下車
バス10分「三島池ビジターセンター」下車

[もっと詳しく知りたいひとへの案内]
(関連文献/関連施設)

- 米原市教育委員会 TEL 0749-52-8025
- 『山東町史』別編 山東町 1990年

三島池のカモおよびその生息地

米原市池下



三島池の冬の逆さ伊吹（米原市 提供）

多くの渡り鳥たちの越冬地である三島池は、春、その鏡のような水面に、雪を被った伊吹山を「逆さ伊吹」として写す。甲子園球場とほぼ同じ大きさの（約39,000㎡）三島池では、冬から春にかけて、マガモやカルガモ、オシドリ、バンなど多くの水鳥を見ることができ、まさに水鳥の楽園と呼ぶに相応しい。

昭和32年夏、池周辺で越冬するマガモの自然繁殖が確認され、三島池は、夏期にシベリア方面へ渡るマガモの自然繁殖地南限地であることが判明した。





野鳥が群れる三島池（米原市 提供）

三島池に飛来する水鳥

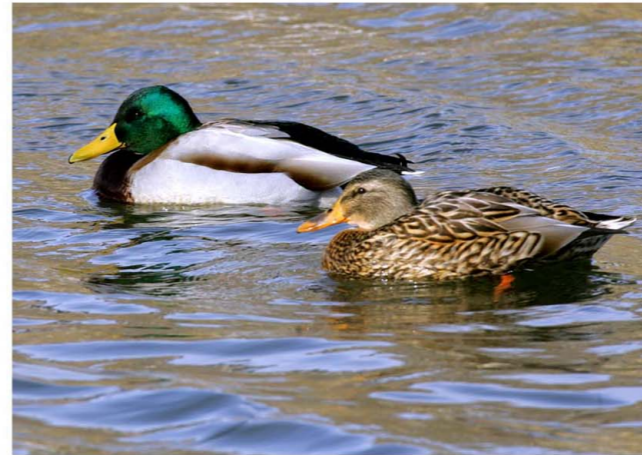
三島池では四季折々の水鳥を見ることができる。



カルガモ（湖北野鳥センター 提供）



ヒドリガモ（米原市 提供）



マガモ（湖北野鳥センター 提供）



カイツブリ（湖北野鳥センター 提供）



カワセミ（湖北野鳥センター 提供）



ゴイサギ
（湖北野鳥センター・日本野鳥の会滋賀 提供）

三島池のカモおよびその生息地

所在地 米原市池下

三島池の伝説

自然豊かな三島池は、実は農業用水確保のために造られた池であった。池の起源は、今から約800年前、近江守護佐々木信綱の長男重綱が大原荘を整備した際に遡るとされる。

伝承では、池を作る際に、比夜叉御前^{ひやしやごぜん}が水神のお告げに従って自ら進んで生き埋めになったところ、池底から水が湧き出し、現在のような満々と水をたたえる三島池となったと伝えられている。

池畔には、佐々木重綱が伊豆国の三島神社を勧進したと伝えられる三島神社や比夜叉御前墓を見ることができる。

三島池の環境

三島池では、三島神社の神池として、古くから水鳥や魚、昆虫などが保護されるとともに、人々が池に生えるヨシや水草を畑の肥料として刈り取り続けてきた結果、水鳥の生息に適した

環境が保たれてきた。

戦後、水草が肥料として用いられなくなると、ヒシなどの水草が水面を覆い尽くしたが、水草の除去工事が行われた結果、再び、水面に浮かぶ多くの水鳥が観察できるようになった。

三島池のマガモ

マガモはカモ目カモ科の水鳥である。本州には冬鳥として飛来する。夏は主にシベリア方面で産卵・孵化^{ふか}し、日本に飛来する。

自然繁殖南限地である三島池では、昭和32年5月8日、山東町立大東中学校科学クラブによって、池の北西の草原で抱卵しているマガモが発見され、その後も毎年、20羽前後が越冬することが判明した。現在、「三島池のカモおよびその生息地」は県の天然記念物に指定されている。

マガモのオスは、黄色いくちばしや光沢のある緑の頭、首に白いリングのような体色をもっている。一方、メスはほぼ全身が黒褐色の地に黄褐色の縁取りがある羽毛で覆われている。